

# 共和紙業株式会社

【システム名】常に変化を先取りするITシステム



## 企業概要

**設立** 昭和24年7月  
**代表者名** 山崎 周三  
**所在地** 小樽市銭函3丁目503-8  
**従業員** 44名  
**T E L** 0134-62-6211  
**F A X** 0134-62-6622  
**H P** <http://www.kyowa-shigyo.com/>

## 事業概要

当社は段ボール箱と印刷紙器（紙製の容器）の専門メーカーです。平成9年にそれ迄の段ボール箱に加え、印刷紙器を経営する子会社を吸収しました。道内では唯一当社のみが、紙器と段ボール箱の両方を製造しているオンリーワンの会社です。

## ウチの経営課題（IT導入の背景）

消費低迷により、ユーザーからは多品種・小ロット・短納期の要望が一段と強くなりました。特に印刷紙器部門においては、函のデザイン・形式等が決定するまで時間がかかり、納期に大きく影響致します。これを短縮する為、CAD・Mac・デジタル校正等関連するIT技術を駆使することが競争上必須です。同時にその後の工程においても、コンピュータ製版による時間短縮、精度の向上等々企業戦略上欠かせないものです。

## ITとの出会い（きっかけは…）

昭和60年、事務の効率化の為、オリジナルなシステムを構築しました。更に段ボールの製造工程の管理システムを独自に構築しました。平成9年に印刷紙器会社を吸収後、見積システムから工程管理システムまで構築し、その後、印刷紙器分野への本格的進出を決定しました。この頃から小ロット、短納期の流れが加速し、これに対応する為、納期を左右する外注品の内製化戦略を打ち出しました。それが、CAD（コンピュータ製図）・Mac・CTP（コンピュータ製版）に繋がりました。

## システムの概要と効果

- 受注前段階 印刷紙器の受注に至るまでは、函の形状・デザイン・色彩等に関し何度も変更されるのが一般的です。これに的確に、スピーディーに対応するには、CAD、サンプルカッター、Mac、高性能スキャナー、デジタルプリンター等の一連の機器が必要です。これらを最新のソフトウェアと熟達したスキルをもって、ユーザーニーズに対応しています。
- 受注段階後 段ボール受注時、必要な原材料は即刻インターネットで発注し、納期に合わせて引取指示を出します。それ迄は1時間以上かけて手入



力していた仕入処理が、同時に自動的に処理されます。又、1日150ロット以上に達することがある1桁台の小ロットの受注と、一括処理するシステムを構築し、成果を上げています。

## ここが大変、ITの導入

昭和60年極少ロット対応と段ボールシステムを構築した経験が、現在の小ロット・短納期化に効力を発揮しています。又、パッケージ部門における製版システムに最新の色管理システムを導入し、従来は難しいオフセット本機刷とデジタル校正を一致させました。

## ウチのシステム、ここがすごい!!

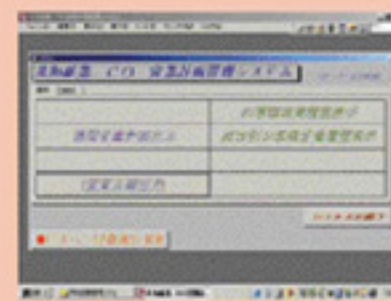
製造工程管理の機械別受注負荷率表は、日常作業の最適化を図る一つの羅針盤となっています。受注が一つの機械に集中した場合は納期の確認をしながら平準化します。調整の効かない場合は即態勢の変更をし2直稼動に移行する等臨機応変に対応していきます。そして、長期的に見ると受注構造の変化を読み取ることができ、機械更新時にはトレンドを考えながらオプションを加え、最適の機械を導入しています。この結果、業績向上に大きく貢献しています。



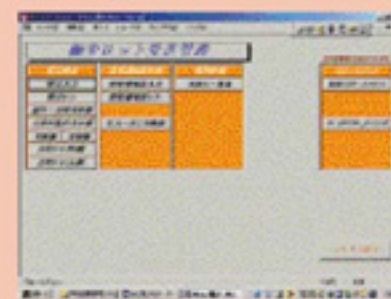
段ボール工程管理システム



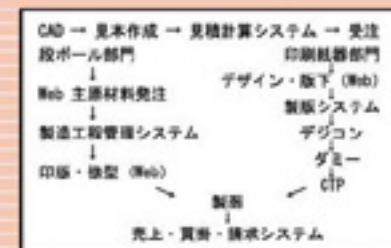
見積計算システム



営業日報・通関計画



極少ロットシステム



Webによる発注システム

## IT利活用で拡がる夢

あくまでITは事業経営のツールです。現在一通りシステムの整備は終わりました。今後、事業の発展とともに先を見越した新システムをこれまでの実績経験をふまえて開発していきたいと思えます。5年前から営業外勤者にノートパソコンを持たせています。印刷紙器の複雑な見積計算及び営業情報用として使用しています。これを利用して、外部からの受注入力及び在庫問合せ等を検討していましたが、その時はセキュリティ他の関係で実現しませんでした。今後、再度検討していきたいと思えます。

## ITについてウチはこう考える

当然のことですが、ITのためのITではなく、ユーザーニーズの変化に的確に対応する為にIT化を利用しています。その結果、業績の向上に結びつけています。常にコストと利益のバランスを考えたIT投資でなければなりません。